

ボランティアスピリット継承のために 水難救済思想の普及活動レポート

日本水難救済会では、海事思想や水難救済会ボランティア思想を啓蒙することにより、将来の後継者になってもらえるよう、海上保安官やライフセーバーの方々を講師に招き、青少年を対象とした水難救済ボランティア教室を全国で展開しています。



(社)琉球水難救済会

平成21年度 若者の水難救済 ボランティア教室

「若者の水難救済ボランティア教室」は平成13年度から始まった事業で、小中学生や高校生等の若者に海の知識を深めてもらうとともに海に親しむ機会を与え、実地体験を通して救命技術を習得してもらうことを目的としています。さらに、海での安全意識の向上を図るとともに水難救済ボランティア思想を啓蒙しています。今年度も国土交通省・海上保安庁・消防庁から後援を受け、各地で開催された模様を紹介します。



■NPO能登水難救済会

平成21年7月26日、七尾市下佐々波漁港にて、市立湊南中学校の生徒32名を含む146名参加のもと、教室を開催しました。昨年も実施したところ評価が高く、今年は学校の方から教室開催の依頼がありました。学校に統合の話もあるため、思い出として生徒たちの記憶に残るようにと身近な海を会場にした運動会が行われ、運動会のプログラムの中にボランティア教室が盛り込まれたものです。ペットボトルを利用した救助法や、救命胴衣・救命浮輪の使用法などを指導しました。



■愛媛県水難救済会

平成21年6～7月にかけて、ブルーエンジェル救難所および来島救難所、新居浜マリーナ救難所、津島救難所、中泊救難所が、地域の小中学校や自治会、関係保安部等の協力を得て、県内8ヶ所で教室を開催。小中学校生徒と教職員、保護者が参加しました。また、中島・新居浜・正岡の各小学校にそれぞれレスキューチューブ1本、北灘小学校には救命胴衣2着と救命浮輪1個を寄贈しました。



■佐賀県水難救済会

平成21年7月15日、唐津市立呼子小学校のプールにて教室を開催。全児童240名と教職員10名、保護者と市教育委員会関係者等50名が参加しました。“命を守る”着衣泳の方法や自己救命策について学んだ子どもたちは、真剣に着衣泳の基本となる背浮きに取り組み、見学していた保護者や教育委員会関係者からは、地域から水の事故を起こさせないという声が上がりました。



■(社)琉球水難救済会

琉球水難救済会では、これまで小中学校および高校生等を対象に教室を開催してきましたが、初めての試みとして、平成21年8月15日に読谷村立喜名小学校において、6年生を対象に「若者の水難救済ボランティア教室および皆泳教室」を実施しました。

喜名小学校の6学年担任教諭およびPTAが「6年生最後の思い出に残る夏休みにしたい」として教室開催を要請。これを受け、当会は第十一管区救難課およびライフセービング協会沖縄県支部の協力を得て、海での安全知識や海洋

危険生物、心肺蘇生法について指導するとともに、皆泳教室の一環としてプールで着衣泳やレスキュー体験などを行いました。講師の指導のもと、ペットボトルや救命胴衣、着衣等を活用した水中での体験、また救助活動の体験に、生徒たちも楽しみながら一生懸命に取り組んでいました。